

## J 横山家住宅

足立区千住4-28-1  
給馬屋さんの正面通り

行馬屋敷の面影を今に行える商家の建物。間口が広くて奥行きが深い建築様式で、戸口は一段下げて造られている。

屋号は『裕屋』といい、線善まで地漉き紙間屋を営んできた。現在の母屋は文政2年(1819)の建造であるが、昭和十一年に改修が行われている。

間口が九間、奥行きが十五間。入り口には広い土間、商家の書院造と言われる、大きな帳場があり、外からは大きい格子窓などを見ることができる。



## K 本陣跡石碑

千住3-33

- 三丁目、100円ショップシルク前。面積は約361坪、建坪は120坪。本陣とは、江戸時代以降の宿場で大名や旗本、幕府役人、勅使、宮、門跡などが使用した宿泊施設。

一般の人は利用することができなかった。

## L 見番横丁

千住3-33 3-22を  
区切る通り

この小路は、昭和初期まで見番横丁と呼ばれた細道で、芸妓置屋や俵宿などが軒を連ねており、旅人に芸者さんの口利きをする店が並ぶ場所だった。(ちなみに芸者さん以外は別な場所で口利きしたい)

細い路地は駅まで続いている。  
三丁目宿場町通りに入って、すぐ左側の路地の入り口には、「千住本陣跡とその周辺」という観光案内の看板アリ。

☆☆ 一休み ☆☆

庚申信仰：中国の道教の節に、庚申の日の夜、三尸虫(さんしむし)という霊物が、人間の過失・悪い行為などを昇天し上帝に告げ、悪人の命を奪うという教えがあった。  
日本には、平安頃に伝わる。長生きを願うなら、庚申の日に睡眠をとらずに、三尸虫が昇天し、告げ口をしないように徹夜して見張るといふ儀式であったが、鎌倉・室町時代には、将軍や大名が近習を集め無礼講酒宴を行っていた。  
江戸時代には、地方や庶民にも広がり、一夜を愉快に過ごす格好の催し日となっていた。  
それに伴い、信仰のための石碑や塔なども多く残されている。

## M 慈眼寺

足立区千住1-2-9  
地藏菩薩(主尊)庚申塔  
蓮華座の光背型地藏菩薩庚申塔。区内でも最も初期の塔であり貴重。

## 源長寺

足立区千住仲町4-1

- 石出掃部亮吉胤(いしでかもんのすけよしたね)の墓  
文禄三年(1598)千住大橋架橋にたずさわる。慶長三年(1596)千住に転入、新田の開発、荒川水除堤の大工事などの功績。
- 多坂梅里(たさかばいり)追悼碑  
医業・俳人・卓越した教育者でもあった多坂の門弟五百余人により文化八年(1811)に建立。単に学習に限らず全人的教育を施したと印されている
- 一啓齋路川(いっけいさいろ)句碑(文化十年没)俳友建部巢兆の住む千住に移り、二十年間居を構えた。碑文表に辞世の句『夏の野に火は消えながら月夜かな』裏には、『家は、ただ四壁、一として長物なく、清素にして自ら楽しみ、書法を以ってお家、句読を授けて業となす』とある。



●阿弥陀坐像庚申塔

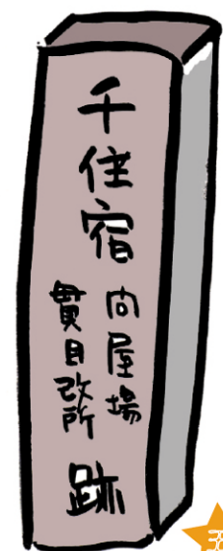
## やっちや場

足立区千住河原町(7°チラス並び)

自家製の野菜や川で獲れた小魚などを道端で販売したのがはじまりと伝えられる。石碑などから逆算すると、天成四年(1576)頃から賑わいをみせていた。  
文禄三年(1594)年には千住大橋が架けられ、荷の扱が増加。享保年間(1720)には、神田・駒込とともに江戸の三市場の一つ、幕府御用市場となった。

空襲でほとんどの建物が焼けてしまったのが残念。

付近には、当時の面影を復刻した木の看板がいくつも展示されている。



## 五に

## 千住神社 3ページ参照